

宇宙戦略基金事業の経過報告

国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構

2025年9月16日

1. 第1期に関する進捗状況
2. 第2期に関する進捗状況
3. 今後に向けて



第 1 期技術開発テーマの進捗状況

● 第 1 期の全22テーマについて契約完了及び補助金交付の決定済み。技術開発マネジメントを開始し、技術的助言・支援を行っている。

領域	第 1 期 全22テーマ		代表機関名	採択通知・公表日	状況	担当PO
輸送	【文】宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術	シミュレーションを活用した熱可塑性複合材に係る基盤技術開発	丸八株式会社	令和7年1月30日	事業開始	佐野PO
		宇宙用途に適用可能な精密部品を対象とした金属3D 積層に係る装置開発及び基盤技術開発	株式会社ニコン	令和6年10月25日	事業開始	姫野PO
		ロケット用大型構造部品を対象とした金属3D 積層に係る基盤技術開発	三菱重工業株式会社	令和6年10月25日	事業開始	神武PO
			清水建設株式会社	令和6年10月25日	事業開始	
	【文】将来輸送に向けた地上系基盤技術	再使用機体の回収系に係る地上系基盤技術開発	日本郵船株式会社	令和6年12月20日	事業開始	神武PO
		打上げ高頻度化等を実現する地上系基盤技術開発	SPACE COTAN株式会社	令和7年1月17日	事業開始	
	【経】宇宙輸送システムの統合航法装置の開発		三菱プレシジョン株式会社	令和6年11月15日	事業開始	神武PO
衛星	【経】固体モータ主要材料量産化のための技術開発		株式会社IHIEアロスペース	令和7年1月31日	事業開始	佐野PO
	【文】高精度衛星編隊飛行技術		国立大学法人東京大学	令和6年12月20日	事業開始	木村PO
			東海国立大学機構名古屋大学	令和6年12月20日	事業開始	
			インターステラテクノロジズ株式会社	令和6年12月20日	事業開始	
	【経】商業衛星コンステレーション構築加速化		日本電気株式会社	令和6年11月29日	事業開始	
			株式会社アークエッジ・スペース	令和6年11月29日	事業開始	
			株式会社QPS研究所	令和6年11月29日	事業開始	
			株式会社Synspective	令和6年11月29日	事業開始	
	【経】衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証 ※2025年9月12日から追加公募を実施。	衛星サプライチェーンの課題解決に資する部品・コンポーネントの技術開発	株式会社ウェルリサーチ	令和7年2月28日	事業開始	
			株式会社ジーエス・ユアサテクノロジー	令和7年2月28日	事業開始	
			コンボジットテラース株式会社	令和7年2月28日	事業開始	
			NECSペーステクノロジー株式会社	令和7年2月28日	事業開始	
			シャープエネルギーソリューション株式会社	令和7年2月28日	事業開始	
			NU-Rei株式会社	令和7年2月28日	事業開始	
			三菱電機株式会社	令和7年2月28日	事業開始	
		特に自律性の観点から開発が必要な部品・コンポーネントの技術開発	三菱電機株式会社	令和7年2月28日	事業開始	
		衛星サプライチェーンの構築・革新のための横断的な仕組みの整備に向けたFS	一般財団法人衛星システム技術推進機構	令和7年2月28日	事業開始	
			株式会社INDUSTRIAL-X	令和7年2月28日	事業開始	

第1期技術開発テーマの進捗状況

領域	第 1 期テーマ 全22件		代表機関名	採択通知・公表日	状況	担当PO
衛星	【文】高分解能・高頻度な光学観測衛星システム		株式会社Marble Visions	令和6年11月29日	事業開始	今井PO
	【文】高出力レーザの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術		国立大学法人京都大学	令和6年11月29日	事業開始	
	【経】衛星データ利用システム海外実証 （フィジビリティスタディ）	海外における衛星データ利用システムの 開発・実証	Space Tech Accelerator株式会社	令和7年2月7日	事業開始	
			オーシャンソリューションテクノロジー株式会社	令和7年2月7日	事業開始	
			パシフィックコンサルタンツ株式会社	令和7年2月7日	事業開始	
			株式会社Solafune	令和7年2月7日	事業開始	
			ウミトン株式会社	令和7年2月7日	事業開始	
			株式会社オーシャンアイズ	令和7年2月7日	事業開始	
		海外における衛星データ利用システムの 開発・実証基盤の整備	一般社団法人日本宇宙フォーラム	令和7年2月7日	事業開始	
【総】衛星量子暗号通信技術の開発・実証		国立研究開発法人情報通信研究機構	令和6年12月20日	事業開始	富田PO	
【総】衛星コンステレーションの構築に必要な通信技術（光ルータ）の実装支援		日本電気株式会社	令和6年11月22日	事業開始		
探査	【文】月測位システム技術		株式会社アークエッジ・スペース	令和6年11月22日	事業開始	白坂PO
	【総】月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証（再公募）		国立大学法人東京科学大学	令和7年4月25日	事業開始	
	【総】月-地球間通信システム開発・実証（フィジビリティスタディ）		KDDI株式会社	令和6年11月15日	事業開始	
			福井工業大学	令和6年11月15日	事業開始	
	【文】低軌道汎用実験システム技術		Space BD株式会社	令和6年11月22日	事業開始	田中PO
	【文】低軌道自律飛行型モジュールシステム技術		株式会社日本低軌道社中	令和6年11月15日	事業開始	中須賀PO
	【文】国際競争力と自立・自在性を有する物 資補給システムに係る技術	複数の商業宇宙ステーションへの自在な接近を 可能とする近傍通信システム技術等の 物資補給システム技術	株式会社日本低軌道社中	令和6年12月13日	事業開始	
			商業物資補給機と商業宇宙ステーションの ドッキングシステムの検証技術	株式会社IHIEアロスペース	令和6年12月13日	
	【文】再生型燃料電池システム		トヨタ自動車株式会社	令和6年11月29日	事業開始	張替PO
	【文】大気突入・空力減速に係る低コスト要素技術		次世代宇宙システム技術研究組合	令和7年1月10日	事業開始	
【文】半永久電源システムに係る要素技術		国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	令和7年1月10日	事業開始		
共通	【文】SX研究開発拠点		東海国立大学機構名古屋大学	令和7年1月31日	事業開始	角南PO
			国立大学法人東京大学（杉山正和）	令和7年1月31日	事業開始	
			学校法人立命館	令和7年1月31日	事業開始	
			国立大学法人東京大学（宮本英昭）	令和7年1月31日	事業開始	
			自然科学研究機構国立天文台	令和7年1月31日	事業開始	

宇宙戦略基金事業（第1期）の執行状況

- 第一期公募テーマの採択結果に伴う支援件数や支援予定金額、契約締結・交付決定等の状況は下表のとおり。
- 今後も、ホームページ等を通じて、随時、支出状況等を公表していく予定。

【前提】

- ① 外部有識者からなる審査会から示された採択にあたっての指摘事項等を踏まえ、**採択事業者が技術開発計画書の作り込み**を実施し、**POの承認**を受けた後、**委託契約締結（委託事業）／補助金交付決定（補助事業）を開始**。
- ② 基金事業としての特性・利点を最大限に活かし、事業者に対する予見可能性を確保する一方、事業化や成果最大化に向けた技術開発マネジメントを有効に実施するとともに、執行管理を適切に行う観点から、当初の委託契約（委託事業）／補助金交付（補助事業）の期間は、**最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日まで**。
- ③ 採択事業者に対する支払方法は、事業終了後の確定検査結果に基づき行う**精算払い**、採択事業者から支出計画に基づく請求を受けて行う**概算払い**。

（令和7年9月1日時点）

担当省	技術開発テーマ数	採択数	支援上限額の総計 ^{注1}	契約締結・交付決定済額の総計 ^{注2}
総務省	4テーマ	5件	225億円	112億円（5件）
文部科学省	13テーマ	24件	1,394億円	954億円（24件）
経済産業省	5テーマ	23件	1,082億円	500億円（23件）
合計	22テーマ	52件	2,701億円	1,566億円（52件）

注1 支援上限額は、予見可能性確保の観点から、採択時に、事業者に対して実施期間全体を通して支援する上限額を通知したものであり、ステージゲート評価等により金額が変動する場合がある。なお、3,000億との差額については、事務費の他、技術開発動向・リスクの変動等にも機動的に対応しつつ、研究加速等を行うために必要な経費であり、これらについては、ステアリングボードでの議論を経て、速やかに執行を進めていく予定。

注2 契約締結・交付決定済額は、最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日までの金額。カッコ内は契約締結・交付決定済の件数。

石田PDと経営層との面談結果

- 近い将来の事業化を見据えた技術開発テーマについて、市場展開に向けた経営層のコミットメントを確認することを目的に、**実施機関の経営層（計8社）と石田PDによる意見交換を実施した。**
- 市場展開に向けた現状の課題認識や、今後の見通し等について相互に確認。

【経営層との対話から得られた示唆】

- ✓ 技術開発が先行するものの、事業化にむけては様々な課題が存在
- ✓ 需要開拓については、分野を問わずに国内官需に高い期待（同時並行で海外官需や民需にも取り組む）
- ✓ 経営による現時点での事業化へのコミットメントは企業やテーマ毎の状況によって異なる
- ✓ 基金事業として、今後も対話を重ねていくとともに、各府省や宇宙政策委員会とも連携をしていくことが肝要

面談企業/代表者		技術開発テーマ
株式会社日本低軌道社中	山本 代表取締役社長	- 低軌道自律飛行型モジュールシステム技術 - 国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術
株式会社アークエッジ・スペース	福代 代表取締役CEO	- 月測位システム技術 - 商業衛星コンステレーション構築加速化
株式会社Marble Visions	中村 代表取締役	高分解能・高頻度な光学衛星観測システム
SPACE COTAN株式会社	小田切 代表取締役社長兼 執行役員CEO	将来輸送に向けた地上系基盤技術
株式会社Synspective	新井 代表取締役CEO	商業衛星コンステレーション構築加速化
株式会社QPS研究所	大西 代表取締役社長CEO	商業衛星コンステレーション構築加速化
トヨタ自動車株式会社	井上 先進技術開発カンパニー プレジデント	再生型燃料電池システム
日本電気株式会社	永野 執行役 Corporate EVP	- 衛星コンステレーション構築に必要な通信技術(光ルータ)の実装支援 - 商業衛星コンステレーション構築加速化

面談企業一覧（順不同）

第1期技術開発テーマに係るステージゲート評価の今後の予定

※2025年9月時点

- 第一期公募22テーマの採択課題52件のうち、34件についてのステージゲート（SG）評価を今年度末頃から実施予定。※1 ※2
- SG評価実施に当たっては、テーマ毎に技術開発や事業化の道筋など総合的な観点から加速・連携・減速・中止等を厳正に判断。基金事業の目標達成にむけて最適な全体運用を行っていく。

年度	2025/4Q	2026/1Q	2026/2Q	2026/3Q	2026/4Q	2027/1Q	2027/2Q	2027/3Q	2027/4Q		
輸送	宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術【C委託】 (株)ニコン,三菱重工業(株),清水建設(株)										総務省 文部科学省 経済産業省
	丸八(株)										
	将来輸送に向けた地上系基盤技術【C→B委託】 日本郵船(株),SPACE COTAN(株) 宇宙輸送システムの統合航法装置の開発【B委託】 三菱プレジジョン(株) 固体モータ主要材料量産化のための技術開発【B委託】 (株)IHIエアロスペース										
衛星等	商業衛星コンステレーション構築加速化【A補助】 (株)Synspective, (株)QPS研究所, 日本電気(株), (株)アークエッジ・スペース										
	衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証【A補助、B委託】 NECスペーステクノロジー(株), 三菱電機(株) シャープエネルギーソリューション(株),三菱電機(株)										
	(株)ジーエス・ユアサテクノロジー コンボジットテラーズ(株) NU-Rei(株),三菱電機(株)										
	高精度衛星編隊飛行技術【C→B委託】 インターステラテクノロジズ(株)										
探査等	東京大学、名古屋大学										
	衛星コンステレーションの構築に必要な通信技術（光ルータ）の実装支援【A補助】 日本電気(株)										
	高出力レーザーの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術【C委託】 京都大学										
	高分解能・高頻度な光学衛星観測システム【B補助】 (株)Marble Visions										
探査等	国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術【C→B補助】 B) (株)IHIエアロスペース										
	A) (株)日本低軌道社中										
	再生型燃料電池システム【C→B補助】 トヨタ自動車(株)										
	低軌道汎用実験システム技術【C→B委託】 Space BD(株)										
探査等	月測位システム技術【C→B委託】 (株)アークエッジ・スペース										
	低軌道自律飛行型モジュールシステム技術【C→B補助】 (株)日本低軌道社中										
	月面水資源探査技術【C→B委託】 東京科学大学										
	大気突入・空力減速に係る低コスト要素技術【C→B委託】 次世代宇宙システム技術研究組合										

※1：SG評価対象外の課題についても、適宜中間評価を行い技術開発の進捗状況等を把握し、計画の見直しの要否を確認。

※2：FSや調査研究等、実施期間が短くSG評価・中間評価の対象外の課題については、POによる課題管理を通じて技術開発マネジメントを実施。

採択済み事業に関する広報・周知活動

- 宇宙戦略基金における各事業の主体は企業等であることから、公募要領の中で研究代表者の役割及び責務として「技術開発課題に関する広報・アウトリーチ活動全般の管理、運営」を定めている。企業等が自身の広報戦略に基づく広報に取り組んでもらうことが重要。
- JAXA基金部としても採択事業者の広報活動を後押し・支援するため、以下の取組を通じて広報活動を展開していく。

事業者によるPRシートの作成

- 第一期採択の52事業者について、各事業者とGP/Pが連携し、1枚紙のPRシートを作成。
- 本PRシートはJAXAの公開HPに掲載予定。
- また、右記のメディア向けイベント等での活用も予定。



PRシートのイメージ

宇宙戦略基金 Media Meetup

- 採択事業者（52事業者）と、基金に関心を持つメディアを集めたマッチングイベントを9月29日に開催予定。※詳細は参考資料
- PRシートを活用してメディアへ基礎情報提供を行うとともに、各社の取材、Web記事等のコンテンツの発信へとつなげていく。



※Copilot生成画像

広報活動によるメディア浸透

- 52事業者が個別に実施した広報施策やメディアと調整して作成したコンテンツについて、JAXAとしても極力HPに転載していく予定。



メディアへの掲載例

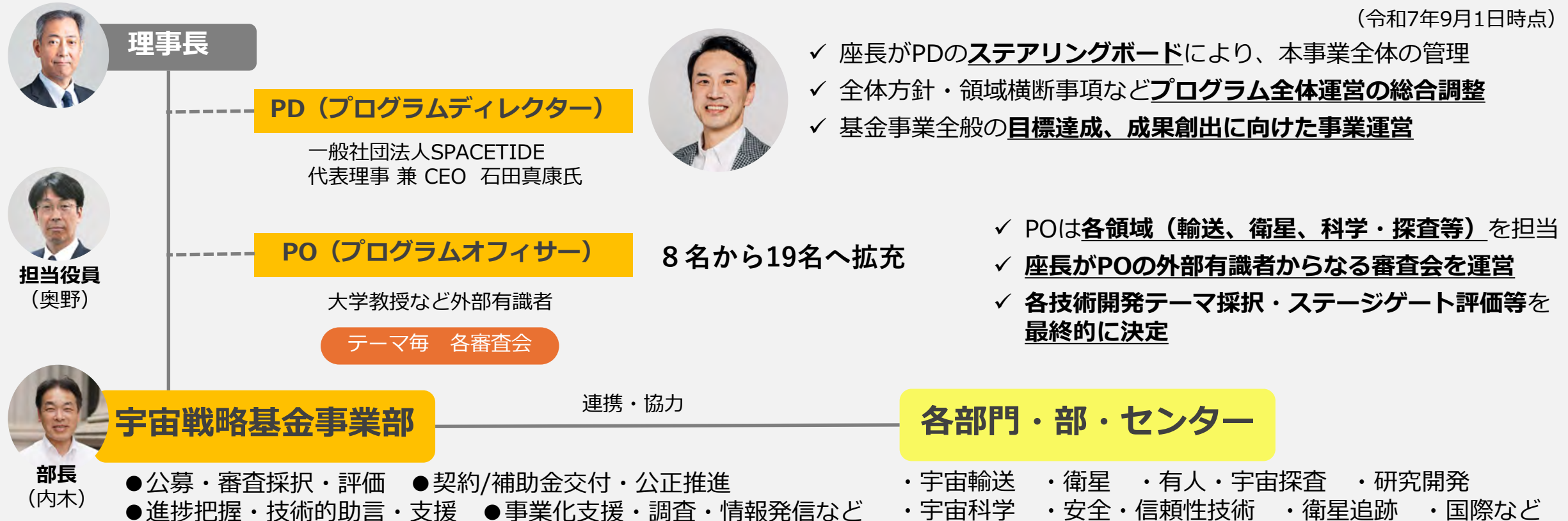
©NHK

1. 第1期に関する進捗状況
2. 第2期に関する進捗状況
3. 今後に向けて



宇宙戦略基金の運営体制

- 理事長からの委嘱による外部有識者のPD（プログラムディレクター）・PO（プログラムオフィサー）体制を構築し、審査・評価等を実施。
- 公募・採択、技術開発マネジメント等を担当する「宇宙戦略基金事業部」の発足（2024年7月）以降、業務量の増大に対応するため、事務局の増員等による運営体制の強化を実施。
- 第2期における技術開発テーマの増加に対応するため、**POは1期と併せて19名体制とするほか、GPを8名体制へ拡充した。**



GP：3名から8名へ拡充。基金部（本務・兼務含む）の体制についても拡充を進める

第2期技術開発テーマの審査体制

領域	PO	技術開発テーマ名	支援規模	支援件数	支援期間 (最長)	支援の 形態
輸送  領域統括:神武 直彦	姫野 武洋 (東京大学)	【経】高頻度打上に資するロケット部品・コンポーネント等の開発	195億円	10件程度	4年	補助
		【経】高頻度打上に資するロケット製造プロセスの刷新	245億円	10件程度	4年	補助
	小笠原 宏 (東京理科大学)	【文】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術	100億円	(A)1~2件程度 (B)1~2件程度	3年 3年	補助 補助
		【経】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフェージリティスタディ 【文】スマート射場の実現に向けた基盤システム技術	5億円 85億円	1件程度 1~2件程度	2年 5年	委託 補助
衛星  領域統括:木村 真一	木村 真一 (東京理科大学)	【文】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術	100億円	(A) 2件程度 (B) 1件程度	7年 7年	補助 補助
	富田 章久 (NICT)	【経】革新的衛星ミッション技術実証支援	120億円	3件程度	5年	補助
		【総】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証 【文】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術	235億円 40億円	1件 3件程度	5年 6年	補助 補助
	尾崎 典明 (TXアントレプレナーパートナーズ)	【経】衛星データ利用システム実装加速化事業	176億円	(A)30件程度 (B)5件程度 (C)1~3件程度	5年 5年 5年	補助 委託 委託
	安藤 真 (東京科学大学)	【総】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証	58億円	1件程度	5年	補助
	末松 憲治 (東北大学)	【総】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証	110億円	1件	5年	補助
		【総】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフェージリティスタディ	4億円	2件程度	2年	委託
	門脇 直人 (NICT)	【総】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発	30億円	(A)1件程度 (B)1件程度	3年 3年	補助 補助
				(A)1~2件程度 (B)1~2件程度 (C)1~2件程度	7年 4年 3年	補助 補助 委託
	張替 正敏 (NEDO)	【文】空間自在移動の実現に向けた技術	300億円	(A)1~2件程度 (B)1~2件程度 (C)1~2件程度	7年 4年 3年	補助 補助 委託
		【文】空間自在利用の実現に向けた技術	165億円	(A)2~3件程度 (B)1~2件程度 (C)1~2件程度	6年 4年 4年	補助 補助 補助
	探査  領域統括:白坂 成功	白坂 成功 (慶應義塾大学)	【文】月極域における高精度着陸技術	200億円	1件程度	5年
中須賀 真一 (東京大学)		【文】軌道上データセンター構築技術	135億円	1件程度	6年	補助
		【文】高頻度物資回収システム技術	25億円	1件程度	3年	補助
田中 哲夫 (RESTEC)		【文】船外利用効率化技術	65億円	1件程度	6年	補助
高橋 忠幸 (東京大学)		【文】月面インフラ構築に資する要素技術	80億円	3~5件程度	5年	補助
共通  領域統括:角南 篤	角南 篤 (笹川平和財団)	【文】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」	110億円	5件程度	8年	委託
	木村 真一 (東京理科大学)	【経】宇宙機の環境試験の課題解決	230億円	(A)2件程度 (B)4件程度	5年 5年	補助/委託 補助
	満田 和久 (国立天文台)	【文】SX中核領域発展研究「SX-ARK」	100億円	20~40件程度	4年	補助

第一期運営からのステアリングボード提言に対する対応

- 今年1月の宇宙政策委員会で報告をした「第一期の運営を通じて得られた今後に向けてのフィードバック」について、政府あるいはJAXAにおいて対応を実施中

ステアリングボードの提言	対応の方向性 (実施済みの事項を含む。赤字はJAXAの対応実績)
テーマ設定過程の更なる透明性と 公募時の競争環境の確保	● JAXAおよび関係府省で公募にむけた積極的な広報活動を実施 ● 競争環境の更なる醸成を目指し、全案件について公募開始予定を年度当初に公表し、応募者の計画的な準備活動を後押し ● 各省における有識者会議を複数回実施、また早期開始（公開形式もあり）
より幅広い視野でのテーマ設定	● 二期では、宇宙分野への関与・裾野拡大が特に期待できる新たなテーマを設定（サービス創出、非宇宙分野の参入促進等） ● 採択予定件数が一期の50件に対して、二期では140件程度
重点テーマ/民間企業等への戦略投資スキーム	● 今後引き続き議論と検討
国際連携を加速させるための仕組みの導入	● 基本方針が改定され「相手国側の宇宙機関等と連携する枠組み作りを行うことも可」とすることを明確化 ● 上記改定を踏まえ、JAXAにおいて「宇宙機関間での協調による「Co-funded 事業推進枠組み」について」を作成・公開
政府調達段階的なシグナリング強化	● 政府調達等が見込まれるテーマについて、調達先となりうる関係省庁等との協議を行いテーマ設定について検討 ● 関係省庁によるステークホルダー評価等を設定するテーマも設定
事業化・商業化に向けた技術開発以外の支援	● 一期について主要技術開発テーマでPDと採択事業者の経営層との対話を実施。主に事業戦略について意見交換

宇宙戦略基金に関する広報・周知活動の取組状況

- 非宇宙分野を含む様々なプレーヤーからの提案を促進するため、公募開始前からの広報・周知活動を積極的に実施。

○ 第2期に関する関係府省との連携イベント、個別テーマ等に係る説明会、ワークショップの開催

- ✓ 3月18日 超小型衛星利用シンポジウム2025において、3省から衛星関係の事業の省内の検討状況を紹介。
- ✓ 3月27日 宇宙関連分野の投資家ネットワーク構築に向けたイベント（Japan Space Investor Meet up）を開催。
- ✓ 4月15日 JAXA公式YouTubeチャンネルにJAXA及び4府省で基本方針・実施方針等に関するWebinar動画を公開。
- ✓ 4月21日、23日 輸送、衛星、探査の領域別に対面＋オンラインによる説明会を実施。
- ✓ 4月21日 第1回有人宇宙輸送システム実現に向けたワークショップを開催。
- ✓ 5月22日 探査領域・地球低軌道テーマ説明会を実施。
- ✓ 5月29日 ステークホルダー評価に関する説明会を実施。
- ✓ 6月17日 第2回軌道上サービスワークショップを開催。
- ✓ 6月20日 第2回有人宇宙輸送システム実現に向けたワークショップを開催。
- ✓ 7月27～31日 SX 中核領域発展研究（SX-ARK）事前相談会
- ✓ 9月 2日 第3回軌道上サービスワークショップを開催。

○ 講演機会の募集

- ✓ 実施方針の策定後速やかに、技術開発テーマの内容についての広報を集中的に行うため、将来の宇宙戦略基金事業の応募主体となりえる企業・団体等が参加するイベントにおける講演を求める団体等をHPで広く募集（募集期間：1月～6月まで）。順次、基金部職員を講師として派遣（27件）

○ イベントを活用した情報発信の実績と予定

- ✓ 2月13日（木）：SPACETIDE協賛イベント【済】
- ✓ 2月28日（金）：第3回アントレプレナーシップ研修（産総研）【済】
- ✓ 3月25日（火）：Japan Space Investor Meet up ～2025 Spring（JAXA）【済】
- ✓ 4月14日（月）：技術開発・共同研究のための説明会（大阪大学）※【済】
- ✓ 4月18日（金）：日比谷宇宙会（ElevationSpace）※【済】
- ✓ 4月21日（月）：地球観測データ利用ビジネスコミュニティ 定期講演会（BizEarth）※【済】
- ✓ 4月22日（火）：月面産業ビジョン協議会（LIVC）総会※【済】
- ✓ 4月25日（金）：CONSEO アイディア検討グループ（JAXA）【済】
- ✓ 4月30日（水）：ニュースペース研究会※【済】
- ✓ 5月16日（金）：福島県航空宇宙関連企業交流会（福島県庁等）※【済】
- ✓ 5月16日（金）：第5回Space approach forum/名古屋宇宙会※【済】
- ✓ 5月26日（月）：月面開発フォーラム-NIKKANKOGYO MOON PRESS-※【済】
- ✓ 6月 6日（金）：九州航空宇宙開発推進協議会※【済】
- ✓ 6月10日（火）：MUGENLABO UNIVERSE 1周年イベント（KDDI）※【済】
- ✓ 6月12日（木）：Interop Tokyo 2025※【済】
- ✓ 6月16日（月）：SPACETIDEスポンサー・パートナーミーティング※【済】
- ✓ 6月20日（金）：中部航空宇宙産業センター（C-ASTEC）記念講演会※【済】
- ✓ 6月23日（月）：小型衛星の民主化とモノづくりの可能性（DENSO）※【済】
- ✓ 6月25日（水）：協豊会 関西地区講演会※【済】
- ※ 講演機会の募集（基金HP内）から応募があったイベント
- ✓ 6月27日（金）：「UchuBiz Direct」ミーティング※【済】
- ✓ 7月7～10日：SPACETIDE2025における基金セッション【済】
- ✓ 7月13日（日）：Tokushima SPACE EXPO※【済】
- ✓ 7月28日（月）：【ユニコーンナイトwith宙畑】宇宙ビジネス編※【済】
- ✓ 7月31日（木）：第2回SPEXA【国際】宇宙ビジネス展※【済】
- ✓ 7月31日（木）：令和7年度 JAXA宇宙戦略基金に関する説明会（鹿児島大学）※【済】
- ✓ 8月 4日（月）：次世代宇宙産業シーズの創出と宇宙戦略基金※【済】
- ✓ 8月 5日（火）：SMBC・SPACE FORUM※【済】
- ✓ 8月 6日（水）：浜松から宇宙へ（㈱ALTILAN）※【済】
- ✓ 8月20日（水）：スペースポート高知勉強会※【済】
- ✓ 8月20日（水）：大阪一水会フォーラム（住友グループ）※【済】
- ✓ 8月29日（金）：宇宙－海洋－地球－生命の研究開発拠点形成に向けて（JAMSTEC）※【済】
- ✓ 9月 1日（水）：二十日会（新潟）
- ✓ 9月 5日（火）：PACサミット（EY新日本）※
- ✓ 9月29日（月）：ぐんまスペースアワード2025（上毛新聞社）
- ✓ 10月8～10日：北海道宇宙サミット
- ✓ 10月31日（金）：宇宙の未来2025（日経新聞社）
- ✓ 11月25～28日：第69回 宇宙科学技術連合講演会

宇宙戦略基金事業第2期（令和6年度補正予算分）公募状況

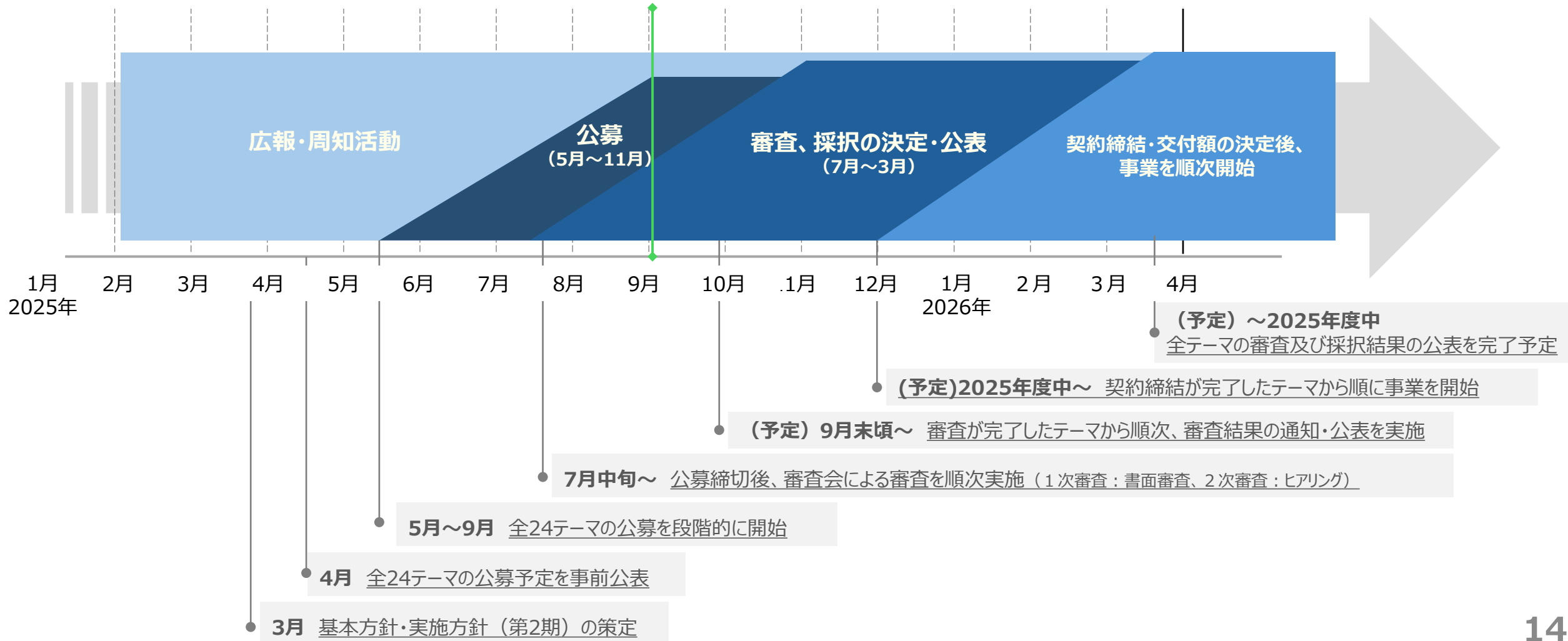
※2025年9月16日時点

- 公募の予見可能性を高め、優れた提案を募集するため、全ての技術開発テーマにおいて、公募の開始時期の目安を事前に公表（4月）。
- 第2期における技術開発テーマの**全24件の公募を開始済。うち11件は公募を締め切り、審査会による審査を開始。**

No.	第2期技術開発テーマ	公募期間	公募状況
1	【経】高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発	5/16～7/17	公募締切（審査中）
2	【総】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフェジビリティスタディ	5/16～7/17	
3	【文】月面インフラ構築に資する要素技術	5/16～7/17	
4	【文】高頻度物資回収システム技術	6/13～8/7	
5	【経】高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新	6/13～8/21	
6	【文】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術	6/13～8/21	
7	【総】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証	6/27～8/21	
8	【文】空間自在利用の実現に向けた技術	6/27～8/28	
9	【文】船外利用効率化技術	6/27～8/28	
10	【総】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証	7/11～9/4	
11	【総】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発	7/11～9/4	
12	【経】衛星データ利用システム実装加速化	7/11～10/2	公募中
13	【経】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフェジビリティスタディ	7/25～9/18	
14	【文】月極域における高精度着陸技術	7/25～9/25	
15	【文】軌道上データセンター構築技術	7/25～9/25	
16	【文】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術	8/8～10/16	
17	【文】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術	8/8～10/16	
18	【経】革新的衛星ミッション技術実証支援	8/8～10/16	
19	【文】空間自在移動の実現に向けた技術	8/8～10/9	
20	【文】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」	8/8～10/2	
21	【文】スマート射場の実現に向けた基盤システム技術	8/22～10/30	
22	【総】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証	8/22～10/16	
23	【経】宇宙機の環境試験の課題解決	8/22～10/23	
24	【文】SX中核領域発展研究「SX-ARK」	9/12～11/6	

第2期事業の今後の予定

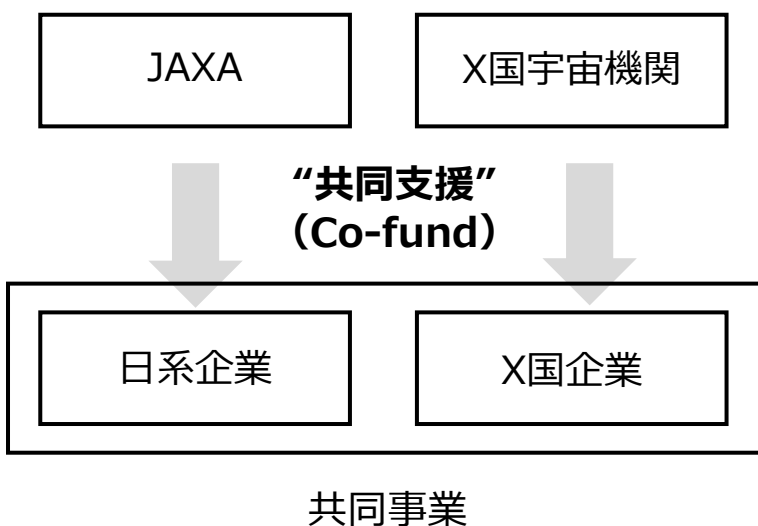
- 今後、全24テーマの提案に対する審査を実施し、**本年度中にはすべてのテーマの審査及び採択結果の公表を完了する予定。**



「Co-funded事業推進枠組み」について

- 宇宙戦略基金基本方針（令和7年3月26日）における「国際市場の獲得を見据えたグローバルな連携に向けて、相手国側の民間企業等が相手国側の宇宙機関等から同様に資金支援等を得ることで、相手国側の宇宙機関等と連携する枠組み作り」に対応する文書として、JAXAにおいて『宇宙機関間での協調による「Co-funded事業推進枠組み」について』を日英で作成・公開※した。
- 宇宙戦略基金を呼び水とした両国企業の協業促進や相手国の資金・市場の獲得等を狙いとし、宇宙機関間の信頼関係に基づく企業情報の共有及び審査・評価への活用等を行う。今後、優先順位やリソースを踏まえつつ、本枠組みに基づく海外宇宙機関との連携を模索する。

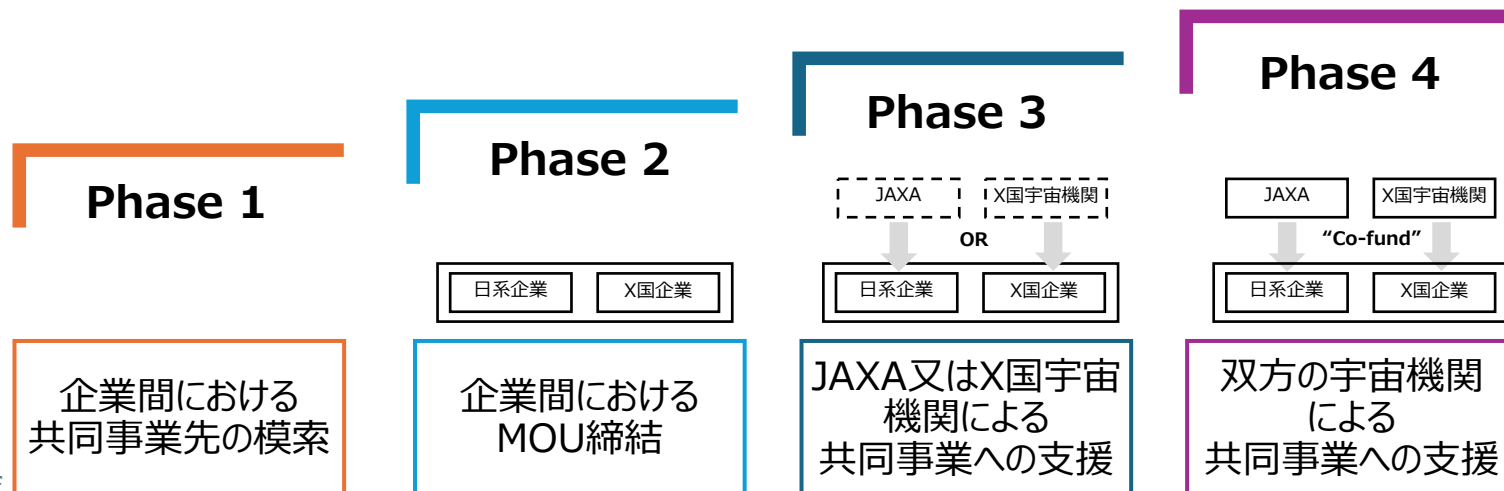
■ 「Co-funded事業」のイメージ



→ 右記のPhase 4に対応

■ 「Co-funded事業推進枠組み」のイメージ（詳細は上記文書を要参照）

- ・ 宇宙機関間で上記文書に基づく取組（情報共有や審査・評価での活用等）に合意
- ・ 基金での採択済み事業や企業間の共同事業等の**企業情報を宇宙機関同士で共有**
- ・ 両国宇宙機関において得られた情報を一部事業で**審査・評価等に活用**し望ましい場合はフェーズアップ
- ・ 全事業でPhase 4 を目指すわけではなく**両国宇宙機関が自律的に判断できる柔軟な枠組みを志向**



- 基金事業全体としてのマネジメントを行っていくにあたり、情報共有やPDからの今後の方針説明を含めて、意見交換を実施。
- 第一期事業の成果創出に向けた今後の進め方やステージゲート評価の方針、第二期の公募審査の方向性について議論。

採択審査や評価の実施に向けて

- 第一期事業については成果創出が期待される中、**ステージゲート評価においては、技術開発テーマの中止も視野に、実施内容の見直し・加速・連携等を厳正に判断**すること。
- 第二期の公募審査においては、1社のみ、もしくは、複数社の提案があったとしても、**不採択あるいは条件付きの採択も視野に、厳正な審査を行う**こと。

基金事業全体の成果創出に向けて

- **基金事業による技術開発の全体像を意識しながら、異なる分野やテーマ間での連携、更なる成熟度の向上が期待される案件の軌道上実証等へのステップアップ、各府省が実施する他事業への接続など、様々な出口を視野に、各案件の進捗を見極めていくことが重要。**
- 技術開発テーマによるが、**出口として政府によるアンカーテナンシーは重要**であり、ステークホルダーとなる**官と事業者との間での情報共有、対話等、コミュニケーションに向けての枠組みを設けていくことも必要**ではないか。

1. 第1期に関する進捗状況
2. 第2期に関する進捗状況
3. 今後に向けて



第一期運営からのステアリングボード提言に対する対応

- 今年1月の宇宙政策委員会で報告をした「第一期の運営を通じて得られた今後に向けてのフィードバック」について、政府あるいはJAXAにおいて対応を実施中

ステアリングボードの提言	対応の方向性 (実施済みの事項を含む)
テーマ設定過程の更なる透明性と 公募時の競争環境の確保	● JAXAおよび関係府省で公募にむけた積極的な広報活動を実施 ● 競争環境の更なる醸成を目指し、全案件について公募開始予定を年度当初に公表し、応募者の計画的な準備活動を後押し ● 各省における有識者会議を複数回実施、また早期開始（公開形式もあり）
より幅広い視野でのテーマ設定	● 二期では、宇宙分野への関与・裾野拡大が特に期待できる新たなテーマを設定（サービス創出、非宇宙分野の参入促進等） ● 採択予定件数が一期の50件に対して、二期では140件程度
重点テーマ/民間企業等への戦略投資スキーム	● 今後引き続き議論と検討
国際連携を加速させるための仕組みの導入	● 基本方針が改定され「相手国側の宇宙機関等と連携する枠組み作りを行うことも可」とすることを明確化 ● 上記改定を踏まえ、JAXAにおいて「宇宙機関間での協調による「Co-funded 事業推進枠組み」について」を作成・公開
政府調達段階的なシグナリング強化	● 政府調達等が見込まれるテーマについて、調達先となりうる関係省庁等との協議を行いテーマ設定について検討 ● 関係省庁によるステークホルダー評価等を設定するテーマも設定
事業化・商業化に向けた技術開発以外の支援	● 一期について主要技術開発テーマでPDと採択事業者の経営層との対話を実施。主に事業戦略について意見交換

参考資料



- 事業全体の管理を行うステアリングボードにおいて、運営指針/プロセスの作成、審査・評価結果の状況把握等を実施するとともに、**執行機関として蓄積される知見の戦略的活用を目的とした議論**を実施。
- 第一期の大半の技術開発テーマについて審査結果公表済みとなったことを踏まえ、「宇宙戦略基金：第一期の運営を通じて得られた今後に向けてのフィードバック」として**改善提案を提言**。

宇宙戦略基金：第一期の運営を通じて得られた今後に向けてのフィードバック

2025年1月

宇宙戦略基金事業 ステアリングボード

① 技術開発テーマの設定

- ①-1 テーマ設定過程の更なる透明性と公募時の競争環境の確保
- ①-2 より幅広い視野でのテーマ設定
- ①-3 重点テーマ/民間企業等への戦略投資スキーム

② 国際連携・海外市場開拓

- ②-1 国際連携を加速させるための仕組みの導入

③ 基金のゴール達成に向けて

- ③-1 政府調達 of 段階的なシグナリング強化
- ③-2 事業化・商業化に向けた技術開発以外の支援

- 採択事業者の当該広報・アウトリーチ活動が円滑に進められるよう、JAXAとして採択事業者とメディアとのマッチングを促進するためのイベント「**宇宙戦略基金 Media Meetup 2025**」を開催する。

1. 開催日時

2025年9月29日(月)	: 9:45~10:00 (開場 9:30)
①JAXA基金概要等説明	: 9:45~10:00
②各領域ごとに事業概要PR	
・ 探査領域	: 10:00~11:00 (11社)
・ 輸送領域、共通分野	: 11:00~12:00 (8社/5社)
昼休憩	: 12:00~13:00
・ 衛星等領域 i	: 13:00~14:00 (14社)
・ 衛星等領域 ii	: 14:00~15:00 (14社)

2. 開催場所

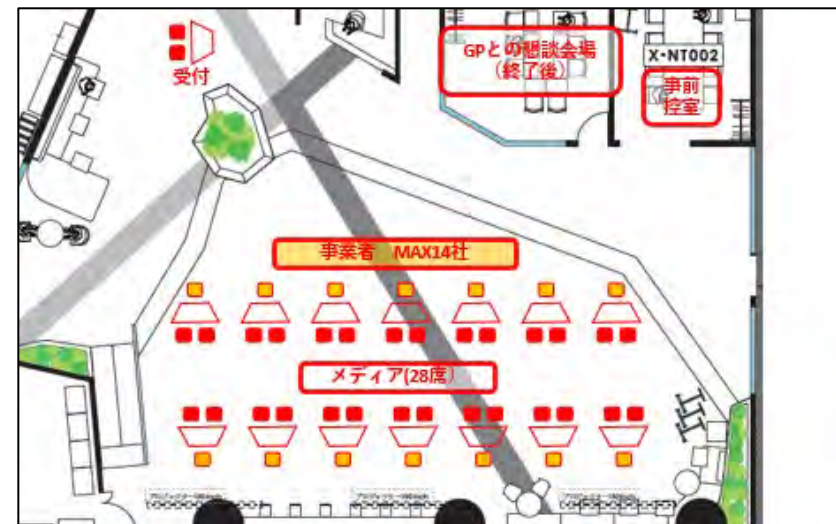
X-NIHONBASHI TOWERカンファレンスルーム

東京都中央区日本橋室町日本橋三井タワー 7 階

現地及び、オンライン (Microsoft Teams) のハイブリッド
(※原則、現地参加)

3. 参加対象者

- ・ 宇宙戦略基金事業（第一期）採択の52事業者の広報担当者（研究代表者やその代理の方でも可）
- ・ 宇宙分野に関心を有するメディア関係者（TV、新聞、雑誌、Web記事、フリーランス等）



会場のイメージ

第1期・第2期技術開発テーマの審査体制

領域	PO	技術開発テーマ
輸送 (領域統括: 神武 直彦)	神武 直彦 (慶應義塾大学)	【文1】将来輸送に向けた地上系基盤技術 【文1】宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術 B-2) 【経1】宇宙輸送システムの統合航法装置の開発
	姫野 武洋 (東京大学)	【文1】宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術 B-1) 【経2】高頻度打上に資するロケット部品・コンポーネント等の開発 【経2】高頻度打上に資するロケット製造プロセスの刷新 【文2】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術 【経2】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についての フィジビリティスタディ
	小笠原 宏 (東京理科大学)	【文2】スマート射場の実現に向けた基盤システム技術
	佐野 久 (佐野久塾リ サーチラボ)	【文1】宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術 A) 【経1】固体モータ主要材料量産化のための技術開発
衛星 (領域統括: 木村 真一)	木村 真一 (東京理科大学)	【経1】商業衛星コンステレーション構築加速化 【文1】衛星サプライチェーン構築のための衛星部品・コンポーネントの開発・実証 【文1】高精度衛星編隊飛行技術 【文2】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術 【経2】革新的衛星ミッション技術実証支援
	今井 良一 (元JAXA理事)	【文1】高分解能・高頻度な光学衛星観測システム 【文1】高出力レーザの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術 【経1】衛星データ利用システム海外実証 (フィジビリティスタディ)
	今井 浩 (明治学院大学)	【総1】衛星量子暗号通信技術の開発・実証
	富田 章久 (NICT)	【総1】衛星コンステレーション構築に必要な通信技術(光レーザ)の実装支援 【総2】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証
	尾崎 典明 (TXアントレ ブレナーパートナーズ)	【文2】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術 【経2】衛星データ利用システム実装加速化事業
	安藤 真 (東京科学大学)	【総2】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証
	末松 憲治 (東北大学)	【総2】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共 用技術等の開発・実証
	門脇 直人 (NICT)	【総2】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及 び製造に関するフィジビリティスタディ 【総2】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等 の開発
	張替 正敏 (NEDO)	【文2】空間自在移動の実現に向けた技術 【文2】空間自在利用の実現に向けた技術

領域	PO	技術開発テーマ
探査 (領域統括: 白坂 成功)	白坂 成功 (慶應義塾大学)	【文1】月測位システム技術 【総1】月面の水資源探査技術 (センシング技術) の開発・実証 【総1】月-地球間通信システム開発・実証 (FS) 【文2】月極域における高精度着陸技術
	中須賀 真一 (東京大学)	【文1】国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術 【文1】低軌道自律飛行型モジュールシステム技術 【文2】軌道上データセンター構築技術 【文2】高頻度物資回収システム技術
	田中 哲夫 (RESTEC)	【文1】低軌道汎用実験システム技術 【文2】船外利用効率化技術
	高橋 忠幸 (東京大学)	【文2】月面インフラ構築に資する要素技術
	張替 正敏 (NEDO)	【文1】大気突入・空力減速に係る低コスト要素技術 【文1】再生型燃料電池システム 【文1】半永久電源システムに係る要素技術
共通 (領域統括: 角南 篤)	角南 篤 (笹川平和財団)	【文1】SX 研究開発拠点 【文2】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」
	木村 真一 (東京理科大学)	【経2】宇宙機の環境試験の課題解決
	満田 和久 (国立天文台)	【文2】SX中核領域発展研究「SX-ARK」

凡例：【文1】→文部科学省・第一期の技術開発テーマ